

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月10日

番号	1	質問者	太 田 茂	タイトル	元気な交流文化都市を目指して
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	第二期朝来市 創生総合戦略 について	(1) 第二期朝来市創生総合戦略の策定に関し、一期の反省を踏まえて、新たな計画を策定され则认为ますが、今回の計画づくりの背景、目的について伺います。 (2) 第一期の事業期間に何が起こったかといえは、人口減少の加速と地域経済を示す一つの指標である地価が近畿で最も下落したことです。一年間で7.3%の率です。地価の下落は、企業業績・企業活動にどのように影響するとお考えかお尋ねします。 (3) 経済活動の停滞は、本市予算の投資先の反映と考へます。現計画の事業はそれなりの効果があったと思ひますが、結果は地価下落となり残念なことになりました。一刻も早く、創生総合戦略の一部を見直し、まちづくり・しごとづくりに力点を置いた計画に見直しては。市長の所見を問う。 (4) 地価の下落は、本市の財政運営の警鐘であるとも考へます。本市を一つの企業としてみれば、創生総合戦略だけでなく、しっかりとした市長のリーダーシップの下、まちづくりの方向付けが大切である。令和二年度の予算編成には、是非、まちづくり（ハード事業を含めた）、しごとづくり（小売り、卸売り、サービス業を含めた）対策を重点的に実施し、地価の下落を緩和する措置を強力に進めることが肝要と考へる。市長の所見を問う。			市 長
2	夜久野高原開 発について	(1) 県事業分の夜久野高原開発の事業進捗状況と今後の事業計画について伺ひする。 (2) 本市単独事業の事業計画があれば、又は、思ひがあれば所見を問う。 (3) 夜久野高原市有地が、現在美しい景観を見せています。社会実験として、一般開放してはどうか。 (4) 夜久野高原開発完了後の、約6haの市有地の活用をどのようにお考えか、所見を問う (5) 夜久野高原全体の観光化について所見を問う。			市 長

3 モビリティ社会の実現を目指して	(1) 国土交通省の実証実験への取組みは、公共交通自動運転化推進の一環と捉えて良いのかお伺いします。 (2) 公共交通機関に、乗り合いタクシーを検討してはどうか。所見を伺う。 (3) 本市の公共交通機関が、残念ながら脆弱であり、高齢者の免許返上が進まない。 高齢者に、長く自動車を使用していただく観点から、交通安全対策としてドライブレコーダーの設置補助を検討してはどうか。 (4) 更に、急発進防止装置等の検討を進め、適時適切な措置を検討してはどうか。	
--------------------------	--	--

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月10日

番号	2	質問者	足立義美	タイトル	朝来市農業の振興を考える
質問事項		質問要旨			答弁を求める者
1	朝来市農業の現状と課題について	朝来市の農業は、今どういう状況にあって、今後どのような施策を展開し、豊かな産地形成、農業の新産業化につなげようとしておられるのか、市長にお尋ねします。 (1) 市内の認定農業者等、担い手への農地集積率は何パーセントでしょうか。 (2) 令和5年度の農地集積率の目標は、40%と相当厳しい目標と感じていますが、目標達成できると考えておられますか。 (3) 市内で「人・農地プラン」を作成済みの地区数は、何地区ありますか。今後市として未作成地区をどう指導していかれますか。 (4) 耕作放棄地が全体的に増加し、特に中山間地域において、増えていると感じていますが、現状をお伺いします。 (5) 認定農業者や営農組合だけでは、地域の農業は守れないと考えます。市でも小規模生産者等に向け集荷支援を検討しているようですが、具体的にはどのような取り組みになるのか、お伺いします。 (6) 市として、今後しっかり農地として守っていく農地の範囲を明確にしていくべきだと考えますが、市の計画、考えはいかがですか。 (7) 少子高齢化が進行し、集落の周辺が荒れてきていると感じています。このまま放置すれば、空家の増加に拍車がかかり、地区の崩壊につながらないか心配しています。地区に対して、草刈機の購入に対し、補助を行うメニューはあるか、お伺いします。			市長
2	担い手の確保と育成について	朝来市農業推進戦略プランでは、担い手の確保と育成に取り組むとされています。農業の未来をどのような担い手に託そうとしておられるのか、市長にお尋ねします。			市長

	(1) 認定農業者が、将来、市の農業を支える中核になると考えます。令和3年度の認定農業者の目標値 42 人は相当努力を要する数値だと考えますが、市長は、どうお考えですか。 (2) 中山間地域等直接支払制度は、令和元年度に第4期対策が終了しますが、第5期対策は実施されるのでしょうか。その場合、補助金等の水準はどのようなのでしょうか。 (3) 移住、定住による新規就農者の確保と育成を進めるとされていますが、現在までの状況と今後の取り組みについて、お伺いします。 (4) 移住、定住による新規就農者に対する支援メニューと、活用状況について、お伺いします。 (5) 地域おこし協力隊が、新しい風を市にもたらしていると高く評価していますが、彼らの中で定住に至った方の割合は、また、人数は何人ですか。	
3 有害鳥獣対策の充実について	有害鳥獣対策は、農家の就労意欲を保持向上させるために極めて重要なことと考えています。海苔網や、電気柵等を張り巡らせて防護しているのが一般的だと思いますが、駆除の強化が本来の姿だと考えます。そこで市長にお尋ねします。 (1) シカ、イノシシの捕獲頭数は減少傾向を示し、また、生息数についても、近年の駆除対策の効果等で減少しているとのことですが、数的にどの程度減少しているのか、お伺いします。 (2) 有害鳥獣による農作物の被害が耕作放棄地の増加につながり、その耕作放棄地が、動物の住処になっているという指摘がありますが、市としてどのような対策を考えておられますか。 (3) シカ等の食肉加工施設を元地域おこし協力隊のメンバーが設置し、頑張っておられますが、市はどのように評価しておられますか。また、何らかの支援はあったのか、お伺いします。 (4) 猟友会との連携による取り組みを強化するとされていますが、近隣の市より駆除に対する補助金が低額と聞いています。駆除頭数を維持するためにも一頭当たりの補助金を増額すべきと考えますが、市長は、どうお考えですか。	市 長

4 岩津ねぎのブランド強化について	日本三大ねぎの一つとして、全国的にも認知されている岩津ねぎは、朝来市の特産農作物として、一番に名前が出てきます。しかし、生産者の高齢化等により、生産は伸び悩んでいるようです。そこで市長にお尋ねします。 (1) 岩津ねぎ生産者向けに、平成 29 年 9 月頃、アンケート調査をされているが、この調査を基に、その後の施策に生かされていることがあれば、お伺いします。 (2) ブランド化のためには、増産が必要と分析されているが、現状は、伸び悩んでいます。伸び悩みの原因は何と考えられていますか、お伺いします。 (3) 農業の 6 次産業化が叫ばれています。付加価値を高めることは、ブランド強化にとっても有効と考えますが、取り組み事例があれば、お伺いします。 (4) 特産物振興事業として、ブランド化と需要の掘り起こしを行うための支援や PR 活動を行うとされています。日本三大ねぎ周知のための看板の更なる設置等により、イメージアップを図るべきと考えるが、市長はどうお考えですか。 (5) ねぎの出荷には、洗浄等の作業が欠かせなく、JA たじまで取り組まれています。洗浄費が今シーズンから大幅に値上げされるようです。岩津ねぎの増産を図るため、洗浄加工施設を市で設置し、安価に洗浄できるようにすべきと考えますが、市長はどうお考えですか。 (6) 上記が困難であれば、省力化のために土付き岩津ねぎの出荷が可能となるような取り組みが必要と考えますが、市長はどうお考えですか。	市 長
--------------------------	---	------------

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月10日

番号	3	質問者	西 本 英 輔	タイトル	子供の成長を見守る施策を！
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	市内学童保育について	(1) 学童保育において定員定数の規定はあるのか。 (2) 全国的には学童保育の待機児童の問題がある地域があるようだが、市内において待機児童や希望する学童保育施設を利用できなかったという事例はあるのか。 (3) 学童保育に施設基準（必要設備、利用児童一人あたりの専有面積等）はあるのか。 (4) 発達障害児（障害といわないまでも特性をもつ児童含む）への支援はどのようにされているか。 (5) 平成27年度より、放課後児童支援員の配置が義務付けられたが、全国的に人手不足が深刻化している地域もある。国では基準緩和も検討されているようだが、市内学童保育施設では人員不足は起こっているのか。また、市として将来を見据えた人員確保の見通しは立っているのか。 (6) 学童保育は学校生活の延長にあり、人間関係がそのまま引き継がれる。また、小学校と学童保育の生活を通じてそれぞれに気付きがあると思うが、相互の連携はどのように図られているか。 (7) 教育長は市内学童保育施設各所を視察されたことはあるか。			市 長 教育長
2	学校給食について	(1) 学校給食センターが供用開始され4年が経過した。学校給食に対する児童生徒、また保護者の評価はどのようなものか。 (2) 過去、学校給食に異物の混入が目立った時期があったが、現在、そういった事例は報告されているのか。 (3) 学校給食において集団食中毒が発生すると、最悪の場合、市内パンデミックともいえる状況が予想される。救急搬送や受け入れ等、医療機関・消防との連携を含めた対応マニュアルは作成されているのか。 (4) 上記の状況となると、学校給食センターによる給食の提供が停止すると思うが、再開までどのように対応するのか。 (5) 上記(3)(4)を想定した訓練は実施されているのか。 (6) 学校給食とは教育の一環か、それともただの食事の提供なのか。			市 長 教育長

	(7) 子供の貧困が社会問題となっているが、朝来市において貧困率はどのくらいか。その観点から学校給食が果たす役割はあるのか。 (8) 学校給食が教育の一環であるならば、給食費の無償化を検討する余地があると思う。市長、教育長はどのようにお考えか。 (9) 子供の貧困に資する役割があるのであれば、夏季休暇など学校給食がない時期にもそれを担保する施策（子供食堂等）が必要ではないか。また、学校給食がそれに資する役割がない場合においても、子供の貧困を鑑みた時、健全な成長に不可欠な栄養摂取に関する施策の必要性を調査し、場合によっては市内事業者と連携して考える必要があるのではないか。 (10) 食育に関して取り組まれていると思うが、所謂「好き嫌い」に関してはどのような対応をされているか。	
--	---	--

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月10日

番号	4	質問者	嵯峨山 博	タイトル	子どもたちへの教育の充実を
質問事項		質問要旨			答弁を求める者
1	学校現場における問題について	(1) 公立学校の学級編成基準により小学校1年生は35名、その他の学年は40名と定められているが、子どもたちの教育環境改善のために、教職員定数改善や教育環境を整備するためにも30名以下学級が望ましいと考えるが、ご所見をお伺いします。 (2) 市内小中学校の学級編成を確認すると、ほとんどの学級が30名以下学級となっているが、30名を超える学級もいくつかある。特に梁瀬小学校1年生は35名、朝来中学校1年生においては40名の上限の生徒である。きめ細やかな教育を、また、市内の教育の平等性や教員の負担軽減からも、教育委員会が学級編成の弾力的な取り扱いの判断を行う必要があると考えるが、ご所見をお伺いします。 (3) 各学校1学級減となれば、必然的に教員2名減となることが法律で定められている。ただ、学校現場においては、インクルーシブ教育、いじめの未然防止等の様々な教育課題や、特別な支援を要する生徒が年々増えている中、教員の業務は多忙化を極めている。これらの今日的な課題を解消するため、現場内で工夫しながら対応は行っている。ただ、学級編成の上限の生徒を受入れることにより、多忙のあまり一人一人の学習に関する課題や、いじめ等の問題に対してきめ細やかな対応や支援ができなくなる可能性もある。そのような中、他市や他府県に目を向けると、福井県においては全県あげて32人以下学級を実施しており、西宮市においては、市費で30人以下学級になるように取り組んでいると聞いている。本市においても、未来を担う子どもへの投資と考え市費により少人数学級への取り組みが必要であると考え、ご所見をお伺いします。 (4) 学びのサポーター増員についてこれまでも要望してきた。会計年度任用職員の議案が出されているが、学びのサポーターはどのようなになるのか。教育委員会はどのように考えているのか。			市長 教育長

	(5) 実力テストについては、全国一斉学力調査と市独自で行っている学力調査がある。この調査を行うことにより、子どもたちの学力はどのように変化したか。評価をお伺いします。 (6) 特に市内中学校において、専門でない教科を生徒へ教えなければならないといった問題が生じている。そのことによって、教員の多忙化に拍車がかかっているのではないか。これは県教育委員会の問題でもあるが、本市においても、毎年の人事異動において、各校における教科担当職員数に偏りが生じ、教員の配置にも問題があるのではないか。このように、人事異動に対する配慮が欠けているように感じられるが、次年度はどのように考えているのかお伺いします。	
2 JR 播但線高速車両の導入について	(1) JR 播但線高速車両の導入について、これまでも市長へ提案しているが、どのようになっているかお伺いします。 (2) 近い将来には寺前から姫路まで走っている電車についても車両の老朽化により車両の入れ替えも考えられる。 寺前駅での乗り換えについても、利用者から不便であるとの多くの声が出ている。 そのことから、老朽化による電車車両の入れ替えではなく、和田山から姫路まで直通で行ける高速車両の導入に向け、交渉を行っていく必要があると考えるが、市長のご所見をお伺いします。	市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月10日

番号	5	質問者	能 見 勇八郎	タイトル	市の人口政策について
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1 人口政策について		(1) 近年の市の人口増減の状況はどう変化しているか。 (2) 人口の社会減を抑制することに市の人口政策の主眼はあったと思うが、その近年の状況はどうか。 (3) 市の近年の出生数、出生率はどのような状況であるか。 (4) 若い世代には第2子以降の出生をためらう「二人目の壁」があると言われるが、市はそのような状況を調査しているか。 (5) 対策を強化して、社会増だけでなく、自然増にも積極的に取り組むべきと考えるが市長はどう考えるか。 (6) 自然増は行政が行えるハード面だけでなく、いわばソフト面における教育の役割は重要と考えるが教育長はどう考えるか。			市 長 教育長
2 播但線の電化について		(1) 播但線の電化、複線化は朝来市が幹事市になっていると聞くが、どのような方針で実現に向けた活動をしているか。 (2) その活動においてどのような問題点があり、どのような解決法が考えられるか。			市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月11日

番号	6	質問者	藤 原 正 伸	タイトル	心身共に健やかに
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	幼児教育保育 の無償化につ いて	(1) 就学前の子どもについて、0～2歳児および3～5歳児のそれぞれの就園率を伺います。 (2) 来月スタートする幼児教育保育の無償化制度に伴って、就学前の子どもの保護者の負担がどのように変わるのか伺います。 (3) 給食費の取り扱いについて、お考えを伺います。			市 長 教育長
2	コミュニティ スクール推進 事業について	(1) コミュニティスクール（学校運営協議会制度）とはどういうものか、その意義を伺います。 (2) 本市では、竹田小学校が既にコミュニティスクールの指定を受けております。学校運営においてどのような成果・課題があったか伺います。 (3) 本事業の推進によって、本市の学校がどう変わるのか。何を目指して本制度を導入するのか伺います。			市 長 教育長
3	予防接種事業 について	(1) 予防接種事業（制度）の意義、定期接種と任意接種の違いを伺います。 (2) 予防接種の摂取率を把握されているか、また未接種の対象者に対する接種勧奨をどのようにされているか伺います。 (3) 近時、成人の感染症予防のためのワクチン接種が推奨され、例えば2016年から水痘ワクチンが50歳以上の带状疱疹予防に使われています。これらの啓発と接種について積極的に取り組むべきと考えますが、ご所見を伺います。			市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月11日

番号	7	質問者	上 田 幸 広	タイトル	普段から災害に備えよう
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	防災について	(1) 第6回避難訓練の成果と課題について伺う。 (2) 地区防災計画の概要とスケジュールについて伺う。 (3) 地区防災計画の作成にあたって内閣府のパンフレット「みんなでつくる地区防災計画 ～「自助」「共助」による地域の防災～」には 計画準備の段階で計画づくりの気運を高める為のワークショップやゲームなどを紹介しているが、朝来市でも「クロスロード」や「HUG」などの防災ゲームを取り入れてはどうか。 (4) 個別支援計画の概要とスケジュールについて伺う。 (5) 朝来市地区防災計画作成マニュアルにある「避難行動要支援方針一覧」の利用方法について伺う。 (6) 福祉避難所の現状について伺う。 ア. 運営マニュアル、ガイドラインはあるのか。 イ. 対象者の人数に対応できるのか。 ウ. 協定書には、支援の内容・方法、費用負担、物資・機材の備蓄など明確になっているのか。 エ. 福祉避難所の情報を周知されているのか。 オ. 移送手段は計画、確保されているのか。 カ. 災害時要援護者支援対策の研修会など行っているのか。 (7) 市民一人一人が、自分自身がとる防災行動を明確化する「マイタイムライン」を導入してはどうか、ご所見を伺う。 (8) 市民の防災意識向上の為に「朝来市家族防災会議の日」を制定してはどうか、ご所見を伺う。			市 長
2	子どもの悩み相談について	(1) 「SOSの出し方に関する教育」についてご所見を伺う。 (2) 本市では子ども自らが気軽に相談する窓口はあるのか。 (3) 県教育委員会が「ひょうごっ子SNS悩み相談」を開設しているが、周知徹底はされているのか。			教育長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月11日

番号	8	質問者	藤 本 邦 彦	タイトル	全てのこどもたちの笑顔のために
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	市内小中学校の不登校児童生徒への支援について	(1) 市内の小学校、中学校における不登校児童生徒の状況についてお尋ねする。現在の人数は。この数年の推移は。 (2) 不登校児童生徒の生活についてどのように把握されているか。（市内公立学校以外の学校や施設に行っているとか、家庭内で勉強しているとか、あまり外出することもなく引きこもりの状態で勉強もしていないとか。） (3) 学校は不登校あるいはそれが予見される児童生徒に対しどのように対応しているか。 (4) 各学校内に専門の先生はいるか。担任などの先生への指導や教育等はあるか。 多様な子どもたちにしっかり対応し、全ての児童生徒の主体性や自己肯定感を育てることが出来る能力、スキルこそ、全ての先生に求められるが、そのようなスキルアップのための研修等は全教職員を対象に行われているか。 (5) 保護者はどのように対応しているか。どこに相談するのか。学校の担任の先生、あるいはスクールソーシャルワーカー以外にも相談出来る場所や専門機関はあるのか。そういった情報を得る機会はあるのか。 (6) 「朝来市こども教育支援センター」は、保護者の皆さんに認知されているか。保護者からの相談件数はどうか。市は周知のために動いているか。このセンターについて、学校から保護者に紹介や説明などがあるのか。 (7) 不登校の児童生徒に通学を無理強いする事は良くない。しかし、放置すると学習が遅れることでさらに学校に行きづらくなったり、社会との接点を失い引きこもりが長期化することなどが考えられる。 不登校の原因は主に学校にある。学校の教育環境を改善することが当然必要であるが、これは一朝一夕には進まない。 そこで、まず不登校のこどもたちが一步を踏み出せる場所が必要である。楽しいと思える、行きたいと思え			教育長 市 長

	る場所、安心して自分らしく居られる場所、自分を表現でき、自信と自己肯定感が持てる場所。そのような場所が必要であると考え。 同時に、専門職員が不登校児童生徒たちを適切に指導し、児童生徒たちがそれぞれのレベルで安心して学習したり、活動したり出来る場所（適応指導教室）が、学校に復帰する上でも必要とされている。すでに豊岡市、丹波市でも設置され成果をあげていると聞く。 このような場所は市内にあるか。あるいは市として作ろうという考えはあるか。 (8) 第2期朝来市創生総合戦略策定に向けて、現在「あさご未来会議」が行われている。先日も多くの高校生と市民が参加し、人材育成について話し合われた。 小学校、中学校の義務教育期間9年間。地域のこどもたちが育つ大切な9年間に私たち大人はどのような教育環境を用意出来るのか。もっと真剣に考えるべきだと感じた。こどもたちが日々自分らしく自分のやりたいことを実現しながら生き生きと活動出来る場所を、私たちは作る責任がある。 学校に行けなくなったこどもたちにも無限の可能性はある。しかし今、こどもたちは先の見えない暗闇の中、大きな苦しみを抱えてもがいている。この大切なこどもたちが、再び夢を追いかけて生き生きと笑顔で成長していけるようにすることこそ、本市が今すぐに取り組まなければならない大きな課題であると確信する。不登校児童生徒の学校復帰のための適応指導教室の設置について、市長はどのようにお考えか。	
2 第三次朝来市環境基本計画について	(1) 第三次朝来市環境基本計画について、本年度策定に向けてどのような作業を進めておられるかを伺う。 今回の策定作業では、この基本計画が本市独自の、本市ならではの環境基本計画になることを期待するが、どのようにお考えか。 (2) 本市の豊かな自然環境を象徴する野生動物として、国指定特別天然記念物オオサンショウウオとコウノトリがあげられる。両者とも生態系の頂点にいる生き物で、多様で豊かな生態系の存在を物語る大変貴重かつ重要な生き物である。こういった市の豊かな自然環境、他にはない特別な環境こそ、基本計画の中でしっかり位置付け、その保全のための取り組みを地域住民と共に、計画的、具体的に実行していくことこそ今後の重要な課題と思うが、どのようにお考えか。	市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月11日

番号	9	質問者	岡 田 和 之	タイトル	幼児教育の無償化・補聴器の補助
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	幼児教育の無償化について	(1) 10月から始まる幼児教育無償化に伴い市の財政負担はどのように変わるのか。 (2) こども園の副食材料費は、公的給付から外され、実費負担になります。このことにより、従前の保育料に比べて負担増となるケースはないのでしょうか。 (3) 副食材料費の徴収方法や、徴収管理等はどうなるのでしょうか。			市 長 教育長
2	加齢性難聴への支援について	(1) 国立研究機関の調査によると、65歳以上の半数が難聴であるとの推計があり、加齢性難聴は、生活の質の低下につながる問題です。また、難聴が認知症のリスク要因であるという指摘もあります。補聴器は症状が進んでからの使用でなく、出来るだけ早く使用することが重要だと言われています。そのためにも、国の補助制度を創設して利用者負担を減らして補聴器を利用しやすくする必要があると考えます。私は本年3月議会でこの問題を取り上げましたが、市としても補聴器購入補助を行うお考えはありませんか。			市 長
3	歯の健康について	(1) 全国保険医団体連合会が本年6月に学校歯科治療調査の最終報告を発表したが、口腔崩壊の子どもがいたと答えた学校の割合が、小学校で42.1%、中学校で33.5%、高校で50%、特別支援学校で42.2%に上ると発表されています。本市の状況はどうなっているのか。 (2) 歯周病予防には日ごろの口腔ケアが大変重要であり、啓発も必要である。本市では歯周病予防にどのように取り組んでいるのか。			教育長 市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月11日

番号	10	質問者	鈴木逸朗	タイトル	家族農業を支える農業政策を
質問事項			質問要旨		答弁を求める者
1	「家族農業の十年」について		(1) 「食糧自給率」をどのように受け止めるか。 ・2018年の食糧自給率（カロリーベース）が37%と発表された。どのように受け止めているのか。 ・本市における食糧自給率はどの程度になるか。 (2) 今年から本格的にスタートした「家族農業の十年」について。 ・どのような認識を持っているか。 ・家族農業、家族経営は、日本の農業生産の98%を支えている。本市ではどの程度か。 (3) 家族農業の利点は何か。 ・大規模経営と比べて土地生産性はどうか。 ・所得率はどうか。 ・コミュニティ、地域経済、地域文化についてはどうか。 (4) 家族農業を支える農業政策を。 戸別所得補償制度を復活させるために必要な予算はどの程度か。		市長
2	就学援助制度について		(1) 就学援助制度受給者の推移について。 ・小学校、中学校の就学援助制度受給者は、この10年間どのように推移しているか。 ・その要因についてはどのように考えるか。 (2) 就学援助認定基準について。 ・生活保護基準の見直しの影響は受けていないか。 ・全国、県内自治体の中で、基準の水準はどのような位置にあるか。 (3) 新入学学用品費（入学前支給）について。 ・入学学用品費の申請者の推移は。 ・入学前の3月に支給される「申請者が少ない」ことの理由は何か。 ・入学前後で認定基準は異なるのか。		市長 教育長
3	いわゆる温泉ミニデイについて		(1) ふれあい市長室で出された要望について。 ・代替策の検討状況は。		市長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月12日

番号	11	質問者	森 田 龍 司	タイトル	朝来の活力あるまちづくりを拓く
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	窓口業務について	(1) 窓口業務のA I・R P A導入について、どのように考えているか。 (2) 例えば、A I・R P A導入のための研究会などのプロジェクトを立ち上げる準備は進んでいるか。 (3) A I・R P A化によって、窓口に来なくても手続きや相談業務などができるようになると思うが、どのように考えているか。 (4) 今すぐにも取組を進めなければならないと思うが、どのように考えているか。			市 長
2	播磨ふれあいの家について	(1) 来年の3月末に播磨町が撤退することから、施設の存続について播磨町と協議しているところだが、その進捗について伺う。 (2) 施設の必要性について、市長は考は。 (3) 指定管理者からも存続の陳情書が出されているが、その内容と対応について聞く。 (4) 播磨町に依頼している施設整備を朝来市で負担し、施設継続をしようと検討しているか。			市 長
3	あさご元気産業創生センターについて	(1) センターの相談業務のビジョンやミッション、目標について聞く。 (2) 商工会の会員数が、事業廃業などによって減少しているが、この状況をどのように考えているか。 (3) 市内の中小企業・小規模事業者の支援は、どうあるべきか見えてきたか。 (4) 商工会とセンターの相談業務の違いについて。			市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月12日

番号	12	質問者	森 下 恒 夫	タイトル	梁瀬中バスケット部の事件について
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	保護者による 暴力と不登校 について	(1) 事件の総括はどうされたのか。 部活動に生徒の保護者が立ち会うのは一般的に許されているのか。 (2) 暴力はしばしばあったのか。 (3) 不登校が発生した後、どう対応したのか。 暴力と不登校の因果関係は。 いじめはなかったか。調査の方法は。 (4) 暴力については、その後どう処理されたか。 当該保護者が関係者に謝ったとのことであるが、刑事事件となったのか。			教育長
2	スポーツ留学 について	(1) スポーツ留学を受け入れたきっかけは。 学校、教育委員会でなぜ問題にしなかったか。 波多野前議員が平成29年9月定例会で行った一般質問での問題提起をどう受け止め、何をしたか。 (2) また、同定例会初日の行政報告で、梁瀬中学校女子バスケットボール部の活躍を名誉なことであると報告されたことについて、市長は、同一般質問で、他の中学校の活躍と同等に扱うことは至極当然と言うようなことを答弁されていますが、現在の所見は。 (3) 元顧問の教師が梁瀬中学校に20年近く在籍したことの是非は。 使用していた個室は処分したか。 (4) 現在の部活動の状況は。 勝利至上主義の総括は。 住民基本台帳法違反では、なかったのか。 再発防止策の市民、関係者への説明は。			市 長 教育長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月12日

番号	13	質問者	吉 田 俊 平	タイトル	市の将来像を、そして実現しよう
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	朝来市の将来像について	(1) 市長は、本市の将来像を短期的には「あなたが好きなまち・朝来市」とされていますが、長期的にはどのような将来像を描いておられるのか、お伺いします。			市 長
2	教育の振興について	(1) 教育長は本市の教育振興（学力向上等）をどのように図っていこうとお考えか、教育長の御所見を問う。			教育長
3	委託基準について	(1) 市場化テストや直営から民営化など、事業を委託する際に基準となる委託基準を市は有しているか。 (2) 委託費の人件費について、時間当たりと日当たりではその積算が大きく異なっている。今後の行政運営において人件費や人件費比率の適正化を図る上でアウトソーシングがこれまで以上に重要となるが、その際には委託そのものの委託基準や人件費などの委託料に掛かる委託基準を市は策定すべきと考えるがどうか。			市 長
4	朝来市健幸づくり条例について	(1) 朝来市健幸づくり条例制定に向けて、進捗状況は (2) 条例の目的など、どのような条例の制定を目指されているのか伺います。			市 長

第9回朝来市議会定例会一般質問通告書（個人質問） 令和元年9月12日

番号	14	質問者	日 下 茂	タイトル	路線価、近畿一下落の影響は？
質 問 事 項		質 問 要 旨			答 弁 を 求める者
1	路線価下落で発生する弊害について	(1) 2019年分路線価が公表され、和田山町玉置の国道312号の下落率は近畿で最大の前年比7.3%減となった。6年連続の下落となったが、見解は。 (2) 相続税、贈与税の算定に悪影響を与えるが、どう考えるか。このまま下落が続くとまちの活力を失うことになる。対策はどう考えるか。固定資産税への影響はどうか。 (3) 北近畿豊岡自動車道の北伸で本市が通過点となり置き去りになったと考えられるが、以前から想定されたこと。活性化対策に怠慢でなかったか。移住対策にどう影響すると考えるか。			市 長
2	e-Tax 申告の課税ミスについて	(1) 本市において、e-Tax で申告した27人のデータに算定誤りがあり、うち19人に課税ミスがあった。e-Tax や市税務課の信頼を根本的に失いかねない。どのような再発防止策を講じたのか。 (2) 市民からの問い合わせで発覚とのことだが、他にミスを発見する手立てはなかったのか。			市 長
3	国際的な競技の誘致ができる施設整備について	(1) 国際的競技選手の合宿誘致は活性化の一端と考える。本市は取り残されていると感じる。見解は。 (2) 児童、生徒の活躍と好成績は市の顔でもあり、夢達成へ支援すべきと考えるが、見解は。			市 長 教育長